

## 玉嶋屋の包装デザインの提案

A2201501 阿子島 望実

### 研究の背景

福島県二本松市にある玉嶋屋は江戸時代から続く玉羊羹を初めとする商品を製造、販売している和菓子屋である。1937年に開発した玉嶋屋の玉羊羹はゴムに覆われた丸い羊羹を刺して食べるという珍しい羊羹として、長い間地元を中心に親しまれている。近年では和菓子には珍しいハート型の玉羊羹などを販売し、若年層にも購入されるなど、新しい客層にも玉羊羹の魅力を伝えるなど商品開発を行っている。しかしパッケージに関してはコスト削減のために、玉羊羹は他の商品と同じデザインのもが使われていることや、ラベルなどは自社でデザイン・印刷をしているため、商品とラベル・包装紙がそぐわない物となっていることが問題視されている。この問題点を解決することで、玉嶋屋の玉羊羹の魅力が更に多くの人に伝わるようなグラフィックツールを提案する。

### 研究の目的

玉嶋屋の商品の新たなグラフィックツールを提案する。「玉羊羹」という文字に使用している茄子紺、包装紙に使用される藤色はそのままにし、それぞれの種類の商品に合ったパッケージやラベルをデザインする。玉羊羹とその他の商品にパッケージデザインで差別化を図り、玉羊羹の魅力をより伝えられるものを制作する。また全商品に共通して使うことのできる包装紙・紙袋や、商品のパンフレット、商品価値が上がるようなラベルや帯を制作し、玉嶋屋の商品のイメージを向上させることを目的とする。

### 研究のプロセス

玉嶋屋に取材とデザイン提案を繰り返し行った。

#### ○前期

パッケージ1案、ラベル2案作成 (図A)

玉嶋屋へ取材① <要望と変更点>

- ・玉羊羹は直射日光や摩擦に弱いため、パッケージの形状はそのままに、デザインのみ変更することに決定。
- ・華美なものにしない、またコストを抑える。
- ・「玉羊羹」の文字は茄子紺、包装紙は藤色にすること。



図A) パッケージ案



図A) ラベル案

▲7月時点でのサンプル

#### ○夏季休業

ラベル2案、包装紙2案作成 (図B)

玉嶋屋へ取材② <要望と変更点>

- ・パッケージはいくつかの商品で兼用のため、様々な形態で販売されている玉羊羹のみパッケージのデザインをする。
- ・商品ごとに合ったデザインにしてほしい。
- ・包装紙の白地は寂しく見えるのでやめてほしい。
- ・若い人に合ったデザインにしてもいいのではないか。



図B) 包装紙



図B) ラベル案

▲9月時点でのサンプル

使用する色を2色ほどに抑えた。

○後期

ラベル 3 案、パッケージ 11 案作成 (図 C)

玉嶋屋へ取材③ <要望と変更点>

- ・パッケージの中身がわかるようなデザインにしてほしい。
- ・ハートの玉羊羹のパッケージはシンプルにし、帯を華やかにしてほしい。
- ・大玉羊羹のパッケージは写真を使用してほしい。
- ・パッケージ案2、ラベル案3は玉羊羹の形と色が現れていて良い。

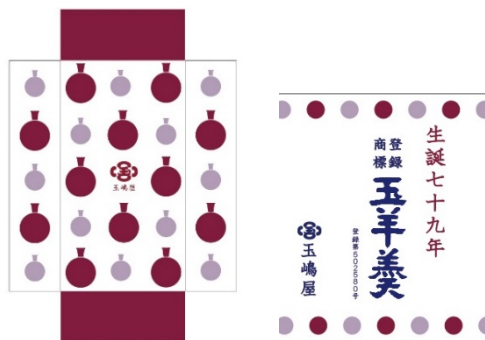


図 C) パッケージ案 図 C) ラベル案

▲11 月時点でのサンプル  
羊羹の色と形を意識した。

成果物(完成作品)

それぞれの商品の特征に合ったデザインを意識した。

- パッケージ 5 種 2 案+1案 11 点
- パッケージラベル(帯) 5 点
- ラベル 7 種 3 案 21 点
- パンフレット 1 点
- しおり 2 点
- 包装紙 2 点
- 紙袋 1 点
- 計 43 点



玉羊羹パッケージ(正面)



玉羊羹帯(正面)



玉羊羹パッケージ+帯(正面)

考察

和菓子の他にも洋菓子など選択肢が多い中で、現代のニーズに合わせたパッケージにすることで新しい客層の興味をより引くことができると考えた。そこで若年層にも受け入れてもらえるようなデザインを意識し、制作に取り組んだ。しかし店舗側にもこだわりがあり、自分のやりたいデザインの方向性を一致させることに苦戦した。店舗とやり取りをして制作を進めることは良い経験になった。だが要望のあったものだけでなく、様々な視点から提案すれば、さらに違った表現のもののできたのではないかとすることが反省点である。